

「親子3代で地域を支える農業を」

越智 祥大（27歳） 新規学卒
（今治市）



1 就農の動機・理由

祖父は畜産、父は水稻・ハウレンソウの栽培を行っており、小さい頃から農業が身近にあった。祖父や父のように農業をするために、高校は農業関連科がある今治南高校で農業の基礎を、大学では環境園芸学部で遺伝育種を学び、農業に関連する知識を深めた。大学卒業後、祖父や父と同じ農業の道を歩むことにした。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和2年)	現在の経営 (令和6年)	将来の経営 (令和11年)
労働力	男1人 (本人)	男1人 (本人)	男2人 (本人と父)
経営耕地	水田 50a 畑 18a	水田 50a 畑 40a	水田 50a 畑 70a ハウス 40a
経営内容	水稻 50a ハウレンソウ 18a	水稻 50a ハウレンソウ 18a	水稻 50a ハウレンソウ 70a 甘長とうがらし 40a

○農業用施設

農業用倉庫 1棟

○主要農業機械

トラクター 3台 (貸借)
田植え機 1台 (貸借)
籾摺り機 1台 (貸借)
コンバイン 1台 (貸借)
軽四貨物 1台 (貸借)
乾燥機 2台
葉物野菜包装機 1台
テーブルコンビ 1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県今治市

職歴 なし

就農研修歴

海外農業研修 オランダ

蔬菜専攻 (R3.4~R3.10)

就農年月 令和2年7月

(2) 就農時の思い

農業は楽しいことも多いですが、植物相手なため、休みをコントロールできないことが多く、辛いこともある。収穫・出荷時期の忙しい時期は思ったより自由がなく、農業の厳しさを感じた。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

農作業の多くは父から教わった。また、海外研修でオランダの革新的な農業について肌で感じる機会もあり、様々な農業体系について習得した。

(2) 資金の準備

父とは経営を分離して、経営を開始したが、機械等は父から借りている。また、令和6年度担い手総合支援事業(県単独事業)を活用し、ハウレンソウの出荷作業を省力化できる葉物野菜包装機を導入することができた。

(3) 農地・住宅の確保

家族が所有する農地と地域の方から借受けた農地で経営を開始した。作業場は祖父の家であり、機械の保管や出荷作業を行っている。

(4) その他苦労したこと

ハウレンソウの出荷作業は年末にかけてが繁忙期で、休みを取ることが難しい。「仕事を疎かにしてはいけない」という祖父と父の教えを守り、寝る時間を削り仕事をしたこともあった。

5 農業経営の特徴

現在は、ハウレンソウを経営の柱に水稻を栽培している。ハウレンソウは今後も面積拡大をしていく予定。

将来は父が経営する甘長とうがらしを継承し、経営の確立を目指している。

6 これからの夢

数年後には父の経営を継承し、規模拡大していきたいと思っている。

露地野菜は面積を多く確保し、大規模経営を行うことが経営の安定化のために必要だと思うので、積極的に農地集積を行い、法人化に向けた大規模化を目指します。

7 成功したキーポイント

小さい頃から農業が身近にあり、高校・大学、農業海外研修など学ぶ上で農業という選択肢が常にあった。広い視野で農業を考えていたことが農業の現場で生かすことができた。

また、見本となる祖父や父の教えをよく聞くことも大切だと感じている。農業研修などを通じて多くの経験をしてきた

が、経験豊富な祖父や父の支えがあってこそ成り立っていると感じている。その教えを生かしつつ、農業仲間・地域の方々・指導員等との輪を大切にすることで、より充実した農業を実現できている。

8 就農を目指す方へのアドバイス

農業は自分の思うようにできるところもあるが、出荷などの繁忙期は自己犠牲で頑張らないといけない場面もある。一生懸命やっていたら、結果は必ず現れてくるし、この頑張りをしている人もいる。頑張りに時に踏ん張ることが大切だと思う。

○ 指導機関からのひとこと

親子代々農業で地域農業に貢献しています。また、青年農業者組織に加入し、副会長を務めるなど、今治地域の青年農業者をまとめており、仲間づくりにも積極的に取り組んでいます。経営規模の拡大を目指し、様々な観点から努力する姿は、これから農業を目指す新規就農者の模範となっています。

執筆機関

東予地方局農林水産振興部

今治支局地域農業育成室

電話番号 0898-23-2570



親子3代でほうれん草の出荷作業